ＪＲ東海労ニュース

№1657
2012年2月3日
ＪＲ東海労働組合

「原発を強行運転するのがリーダーだ」？？
葛西会長が語るリーダー論の危険性！

１月30日『産経新聞』の「The リーダー　インタビュー」に葛西会長が登場し、リーダー論を展開しています。「経済の血液である電力の安定供給に、政府は明確な方針を出していない。東京電力のコスト上昇を抑えるには原発を使うしかない。…世論の顔色をうかがい決断していない。リーダーシップの欠落だ」と、政府を批判しています。原子力損害賠償支援機構の運営委員でもある葛西会長が、福島第一原発事故の収束の目処すら立たないうちから、このような主張をすることは、とても常識ある人間だとは思えません。

しかも、主張は事実に反しています。原発のコストが一番高いのは今や常識です。現在、電力の供給は不安定ですか？原発が稼働しなくとも、電力は足りているではありませんか。そんなに原発が大事なら、葛西会長が福島第一原発で作業すれば良いのです。

さらに、「経営は中途半端な妥協をしない。軍事的なプロセスに似ている」と主張しています。ＪＲ東海が軍隊のような社員管理をする根拠はここにあります。原発を強行運転させ、企業は軍隊式でやることが、葛西会長のリーダー論なのです。リーダーとは、大衆を幸せに導くために存在するべきものです。葛西会長の持論は独裁者の理論ではないでしょうか。

「経営は軍事的プロセスに似ている」？
これこそ独裁者の理論だ！

The リーダー　インタビュー

ＪＲ東海・葛西敬之会長

本質見抜く力は体験から

―東日本大震災はリーダーシップの問題を浮き彫りにした

「経済の血液である電力の安定供給に、政府は明確な方針を出していない。東京電力のコスト上昇を抑えるには原発を使うしかないことに明白。政治がリードしなければならないのに、世論の顔色をうかがい決断していない。リーダーシップの欠落だ」

―政治で感じることは

「日本の財政は崩壊しかかっており、分割民営化前の国鉄よりも悪い。電力問題、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）参加など、答えは明確なことを誰もはっきりいわない。リーダーシップ不在で、日本を滅ぼす決定をし戦前と同じだ」

―著書では経営と政治の意思決定の違いを指摘している

「経営は中途半端な妥協をしない。軍事的なプロセスに似ている。経営者は全責任と全権をもって決定し、結果が悪かったら責任を取る。一方、政治は妥協の産物。誰の責任か分からない。国鉄は常に政治に意思決定されている」

リーダー不在の日本。混迷の時代、未来を切り開く指導者の資質とは。国鉄の分割民営化を主導し、リーダー論の著作も多いＪＲ東海の葛西敬之会長に聞いた。（内山智彦）

かさい・よしゆき　東大法卒、昭和38年国鉄、62年ＪＲ東海。平成7年同社社長、16年から会長。国鉄民営化を手がけ、ＪＲ東海発足後はリニア中央新幹線計画を推進した。全寮制の中高（愛知県瀬都市）設立発起人の一人。昨年10月から政府や電力会社でつくる原子力損害賠償支援機構の運営委員も務める。東京都出身。71歳。

「寮生活で同世代の仲間と暮らし、折り合っていく仕組みをつくった。すべてがリーダーになるわけではないが、求められれば化けることのできる人材をつくりたい」

―実社会でリーダーを育てるには

「例えば、事務系の人間を現場に置き、初めて会う人を部下にして仕事をしてみろ、と場を与える。そこをくぐり抜けると視野が広くなり、人を束ねる原理がみえてくる。場を与えられないと人間は育たない」

◇

企画「Ｔｈｅリーダー」では番外編として各界の著名人にリーダー論を語ってもらいます。随時掲載。

形態だったことでだめになった。一番悪いのは間違いが分かっているのに、決断できないまま手遅れになること。今やることを決断する習慣が大事だ」

―日本は決断力のあるリーダーが生まれにくい土壌なのか

「これまではみんなをうまくまとめる、という内向きなリーダーでよかった。特に米ソ冷戦時代は、米国が針を決めてくれた。時代が求めておらず、（決断力のある）リーダーが生まれにくかったのは当たり前。現在は欧米の経済減速、中国の軍事大国化と世界が混沌としている。リーダーが必要だ」

―リーダーシップはどうつくられる

「前例に基づいて、将来を想定するのはリーダーシップでなく官僚主義。当たり前だが、先行きに地図はない。リーダーシップとは人間力だ。人との関わりは携帯電話とメールだけ、「下校したら塾に行き、帰って寝るだけ」という現代の生活では人間関係の訓練が少ない。社会性が失われた人物にリーダーシップはとれない。体験のないところに洞察は生まれない。複雑な事態の本質を見抜く力は体験でつくられる」

―（設立発起人となった）海陽学園では、リーダー育成も掲げている